

第51回「議員と語ろかい」報告書

文教厚生常任委員会（No. 1）

開催日	令和 8 年 5 月 13 日 19時00分 ～ 20時30分		
開催場所	霧島市役所 議会棟 3 階 全員協議会室ほか		
団体名	個人参加	参加人員	12 人 (男 3 人 : 女 9 人)
出席議員	久木田大和、塩井川公子、田中紗弥佳、渡邊理慧、立和田広司、渡邊圭章、植山太介、竹下智行、川窪幸治		
役割分担	班 長（久木田大和）副班長（塩井川公子）記録係（田中紗弥佳）		
テーマ及び具体的な内容	子どもの課題を語ろう 全ての子どもが学べる多様な学びのカたち		

◆は参加者の発言 ◇は議員の発言

意見交換での主な話題等

PTAと不登校支援について

近年、不登校の子どもたちが増え続けており、令和6年度には鹿児島県内でも3,000人を超えています。原因は一つではなく、本人・保護者・学校、それぞれで感じ方や捉え方が違います。

後になって「勉強についていけなかった」「“できません”と言えなかった」と。

知能検査で特性の凸凹や適応障害が分かることも多い。同じように困っていても言えない子どもたちが多くいるのではないか。

現在は、

- ・ 知能検査が半年～1年待ち
- ・ カウンセリングも待機が長い
- ・ 支援学級にもすぐにはつながれない

など、支援までに時間がかかる現状があります。

学校現場もマンパワー不足が深刻です。

先生方が時間外で対応してくださっているケースも多く、学校だけで抱えるには限界が来ていると感じます。

また、不登校支援センターやフリースクールは国分・隼人地区に集中しており、地域格差もあります。フリースクールは費用負担も大きく、継続利用が難しい家庭も少なくありません。

一方で、学校以外の居場所や学び方の重要性も感じています。

霧島市福山の 福山高等学校 の「モジュール授業」は、短時間で集中しながら基礎学習を行う取組で、子どもたちに合った学び方の一つだと思います。

また、福岡視察で学んだ 夢みる小学校 のように、子ども主体で考える教育や、地域と連携したコミュニティスクールの取組も、これから必要になってくると感じました。

eスポーツやオンラインスクールなど、学校以外で社会とつながれる場も増えています。

「学校へ戻すこと」だけではなく、その子に合った居場所や学び方を地域全体で支えていくことが大切だと思います。

さらに、子どもの声を守る「アドボカシー（意見表明支援）」の制度化も必要ではないかと感じています。

子どもたち一人ひとりに合った支援を、学校・家庭・地域・行政が連携しながら進めていく必要があると感じています。